

South Wind

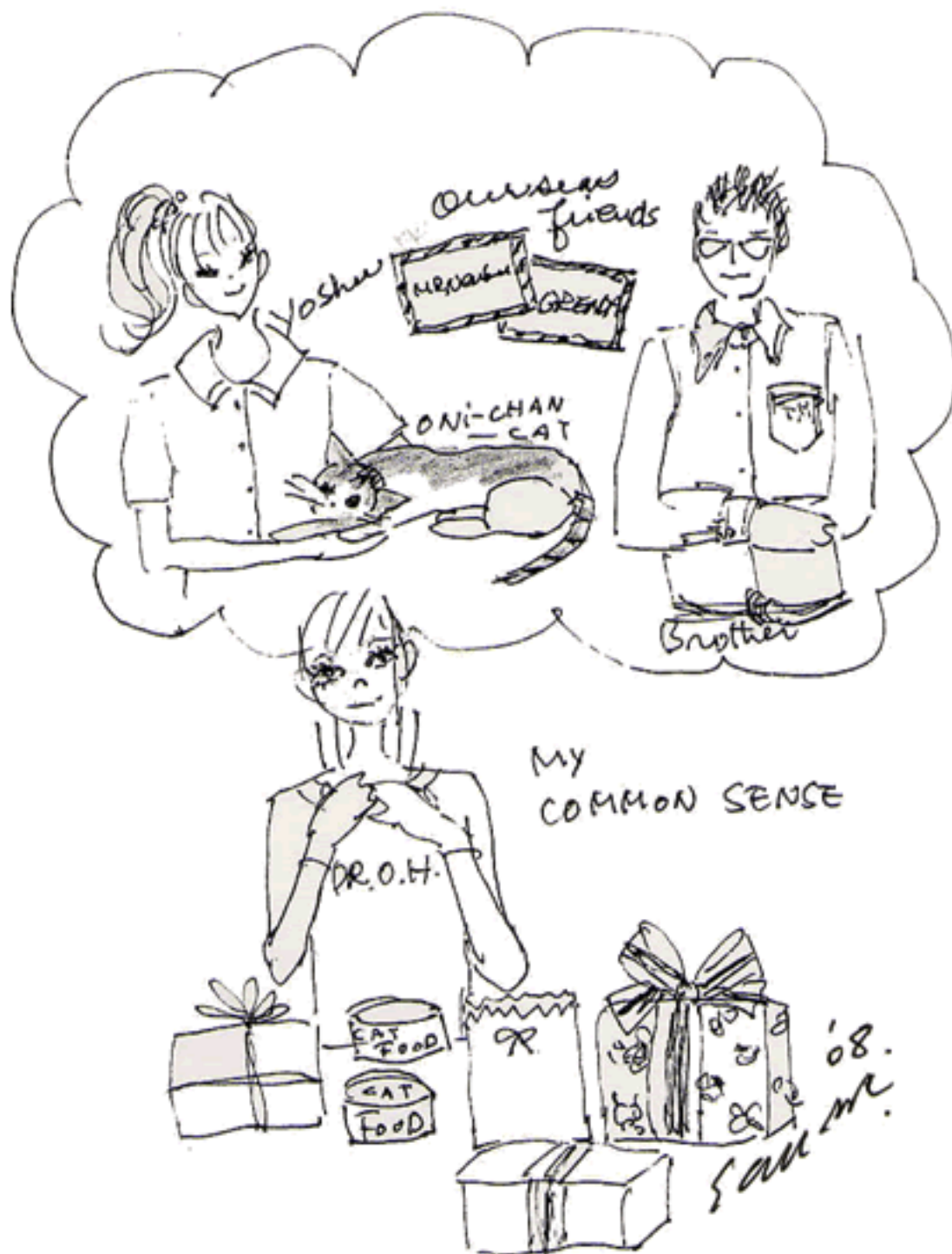
港区国際交流協会
Minato International Association

目次・Contents・目录

* スティーヴンスはるみのアメリカ便り (56) アメリカ、法律の常識	3
*A letter from the USA (56) The common sense to know the U.S. Law	4
* 美国来信 (56) 美国、法律的常识	5
* タブー	6
* Taboo	7
* 忌讳	8
* 文学常識と自然常識	10
*Literary common sense and natural common sense	11
* 文学常识和自然常识	12
* 万国四方八方 (9) 少々のことには	18
*We shouldn't stick to trifles!	19
* 万国四方八方 (9) 小事一桩	19
<hr/>	
【コラム】 還暦	9
Column: Kanreki.....	9
专栏： 花甲	9
中高生のスイス大使館訪問	13
Visit to the Embassy of Switzerland	13
走访瑞士大使馆	14
スイス大使館に行って	15
Visit to the Embassy of Switzerland	15
走访瑞士大使馆	15
中高生のスイス大使館訪問	16
Visit to the Embassy of Switzerland	16
走访瑞士大使馆	17
編集後記	21
Postscript	21
编辑后记	21

* テーマ記事 * Theme articles * 主题

「私の常識！＝あなたの非常識？」・ "Common sense to me = Nonsense to you?" ・ 「我的常识！＝你的没见识？」



* スティーヴンスはるみのアメリカ便り (56) アメリカ、法律の常識

スティーヴンス はるみ

[2008年7月17日]

27年前、アメリカ生まれの夫と東京で知り合った時、日本で生まれ、日本で育ち、日本の外で生活したこともなかった私は、それまで日本の常識と他の国の常識の違いについて考えることもなかった。アメリカから初めて日本へやって来て、ある程度予想はしていたものの、『常識の違いには驚いた。』と彼はよく話してくれたものだ。

日本では道などにビールの自動販売機が置いてあるのを見て、彼は初めたいへん驚いたと言う。今ではそういう自動販売機も日本から姿を消しているという聞いたが、27年前、私の夫が初めて日本の土を踏んだ頃の日本では何の不思議もないことだった。しかしアメリカ人にしてみれば、それはとんでもないことなのである。

「飲酒は法律によって、ある年齢に達していなければ許されず、未成年者がお酒を手に入れることをアメリカでは警察などが厳しく取り締まっている。それなのに、子どもでもいつでも自由にお酒を買うことが可能であるということが信じられない。」

とアメリカ人の夫は私に言った。

「私は子どもの頃、親に頼まれて、近所の酒屋までビールを買いに行った記憶がある。」

と私が言ったらもっと驚いたことは言うまでもない。その当時、それは日本ではごく典型的な『お使い』であり、私の親もそして私自身も何の疑問も持たずにしていたことである。

この常識の違いは、法律の違いでもあるのだが、法律社会のアメリカで、法律上の常識を知らないといへんなことになる場合もある。

アメリカではレストランやバーでお酒を注文した場合、その人が明らかに成人である、と思われても、自分の年齢を証明できる身分証明書の提示を必ず求めるところも多い。未成年者にお酒を出したことが後で分かると法律で罰せられるのである。酒屋が明らかに未成年と見て分かる人にお酒を販売することも違法であり、自宅で未成年にお酒を飲ませるのも違法である。アメリカでは飲酒が許されるのは21歳からであるので、この点も注意しなければならない。

車社会のアメリカでは自分で車を運転しなければどこへも行けないという所はたくさんある。そういう土地で、外へ飲みに行く場合、飲んで車を運転

する事を余儀なくされる。これを、『アメリカでは飲んで運転しても良いのだ』と誤解している日本人が意外と多い。

アメリカ滞在中の日本人がレストランで食事をし、ビールなどを飲んだ後、車を運転して帰宅、または滞在しているホテルに戻る途中、単純な交通違反で警察に止められることもあるかもしれない。その時、警官が飲酒運転ではないか、と疑いを持った場合、血液中のアルコール度を調べられる。これは州によって異なるが、例えばジョージア州の場合は、血液中のアルコールが0.01%で法律上、酒酔い運転となり、手錠をかけられてその場で逮捕となる。しかも酒酔い運転は軽犯罪ではなく、重罪である。初めての酒酔い運転は猶予付きになる可能性が高く実刑は免れるが、高い罰金、公共奉仕、3日間の特別講習受講などを強いられる。アメリカでも、飲酒運転はしてはいけないのである。

アメリカでは子どもの安全をさまざまな法律で守っている。日本でも真夏、炎天下の駐車場で車の中に子どもを置き去りにして死なせてしまう事件は毎年後を絶たないが、アメリカでもこれは大きな問題となっている。そのため、車に子どもを置き去りにすると、たとえそれがごく短時間で、たとえ命に別状なくても罪になる。

アメリカでは通行人などが、車の中に子どもが一人に残されたりしているのに気づけば、直ちに警察に電話をする。ほんの5分、10分でも子どもを車に残してその場を離れたら、車に戻ったところで警察に手錠をかけられることになる。

幼い子どもを一人にすることはそれだけで罪になる。

日本では、小学生くらいの子どもの家を置いて近所へ買い物に行ったとしても罰せられることはまずないが、アメリカでは違法である。この様な理由で逮捕されると、保釈金を積んで親はすぐに牢屋を出ることはできても、子どもは取り上げられ、しかるべき所にあずけられてしまう。子ども虐待の心配がないことが証明されるまで、子どもに会うことも許されない。

単純に文化、習慣の違いから来る常識の違いなら罪がなく、恥をかくだけですむが、法律の常識を知らないと手錠をかけられてしまうこともある。笑ってはすまされないので注意が必要である。

***A letter from the USA (56) The common sense to know the U.S. Law**

Harumi STEPHENS

[July 17, 2008]

When I, born and raised in Japan and never lived outside, met my husband in Tokyo 27 years ago, I had never really paid attention to the differences in common sense between Japan and other countries. When I met him, he used to tell me that while he knew, before coming to Japan, that cultural differences between US and Japan existed, he was still not prepared for some of the “differences in common sense.”

He told me that he was surprised to see vending machines for alcoholic beverages on the street. It seems that such vending machines are disappearing in Japan these days. However, 27 years ago, when my husband set foot on Japanese soil for the first time, those vending machines were everywhere in Japan. It was an outrageous sight for an American. “The law prevents those who have not reached a certain age from drinking alcohol and law enforcement is trying hard to crack down on underage drinking in the States. I can not believe that any child can buy alcohol so easily here in Japan,” my American husband used to say to me in disbelief. Needless to say, he was flabbergasted when I told him that I remembered “being sent by my parents to a liquor store to buy beer for my father when I was little.” It was an innocent “chore” that neither my parents nor I never really questioned at that time. We have these differences in common sense partially because we have different approaches to law. The United States is a nation of laws, and you can get yourself in trouble if you don’t know the laws.

In the States, some restaurants and bars check your ID to make sure that you are at the legal age to drink alcohol when you order an alcoholic beverage, even if you clearly look over the age. If you serve an alcoholic beverage to someone who is under the legal age, you can be punished. It is illegal for a liquor store to sell alcoholic beverages to anyone underage, and serving alcohol to an underage person at your home is also illegal. You need to be careful because the legal age to drink alcohol is 21 in the States.

The United States is a car-oriented society, and in most cities you need a car to go almost everywhere. If you want to go out for a drink, you might have to drive yourself.

Some Japanese misunderstand this culture and believe that “it is OK to drink and drive in the States.”

For example, you are visiting the U.S. and go to a restaurant and decide to have a beer with your meal. If you are stopped by the police because of a simple traffic violation on your way home or to the hotel where you are staying, the police can check the alcohol level in your blood if the police officer suspects that you are driving under the influence. The law is different from state to state. In the state of Georgia, an alcohol level of 0.01% is enough to be considered as DUI (Driving Under Influence), and you will be handcuffed and taken to jail. DUI is felony in Georgia and not a misdemeanor. If you are a first offender, you are likely to be put on probation and do not have to serve in prison. However, you are required to pay a substantial fine, provide community service, and attend DUI classes for three days, in addition to some other conditions. You are NOT supposed to drink and drive in the States either.

In the States, certain laws are in place to protect children. Every year in Japan, children who are left by their parents in a car parked outside on a hot summer day die and draw public attention. This also happens in the States, and the public shares the same concern. You will be punished if you leave your child alone in a car, even if it is for a short time and no harm is done to your child. In the States, if you leave your child in your car even for 5–10 minutes, any bystander would call the police, and the police might arrest you when you return to your car.

Leaving children alone can be a crime in the States.

In Japan, you are not likely to be punished if you leave an elementary school age child at home while you run to a neighborhood store for some quick shopping. In the States, this is illegal. If you were arrested for such cause, although the parent might be released from jail on bail, the child would be taken away and placed in foster care. You would not even be allowed to see your child until the authorities establish that no abuse has taken place at home.

The lack of common sense that simply comes from cultural differences can be innocent and funny. However, if you don't have the common sense to know the law in the States, you can be arrested. That is not funny at all.

[2008 年 7 月 17 日]

27 年前，与在美国出生的丈夫在东京认识时，对于在日本生日本长、没有在日本国外生活过的我，从未想过日本常识与其他国家常识的不同之处。丈夫经常说，刚从美国来日本时，虽然在某种程度预想过日本的情况，但仍然为“常识的不同而吃惊。”

看到日本在路边等安置的啤酒自动销售机，他起初很吃惊。听说这种自动销售机现在已经从日本消失了，但 27 年前我丈夫初次踏上日本土地时，在当时的日本并不奇怪。但从美国人看来，是不可思议的。美国丈夫对我说：“根据法律，不到法定年龄不允许喝酒，在美国，由警察等严格监管，不允许未成年者买酒。很难相信在日本，小孩子可以随时、自由地买酒。”当我说：“记得小时候替父母到附近的酒店买啤酒。”时，不用说，他就更吃惊了。当时，在日本这是典型的“孩子做的事”，我父母和我自己都没感到有任何疑问。

这种常识的不同也有法律方面的不同，在美国这个法律社会，不懂法律常识有时会导致大事件。

在美国餐厅、酒吧叫酒时，很多时候尽管客人明显是成人，但也要求出示可证明自己年龄的证明。如被发现向未成年者提供酒水，将受法律惩罚。酒店向明显是未成年者售酒是违法，在自己家里让未成年者喝酒也是违法。在美国，21 岁起才允许喝酒，这点也务必注意。

美国是个汽车社会，在很多地方，如自己不开车什么地方也去不了。在这些地方出外饮酒时，喝了酒也不得不开车。很多日本人因此误解：“在美国酒后驾驶也没问题。”

在美国的日本人在餐厅吃饭、喝啤酒等后驾车返回宾馆途中，可能会因为一般违反交通规则而被警察叫住。如警官怀疑你酒后驾驶，就会检查血液中的酒精浓度。各州有所不同，如佐治亚州，血液中的酒精达 0.01%，在法律上就是酒后驾驶，当场戴手铐逮捕。而且酒后驾驶并非轻罪，是重罪。初犯者很可能会延期执行，免于实刑，而处于高额罚款、公众服务、强制接受 3 天特别讲座等。在美国不能酒后驾驶。

在美国，为了孩子的安全必须遵守各种法律。日本每年盛夏，将孩子置于太阳下停车场的车子里导致孩

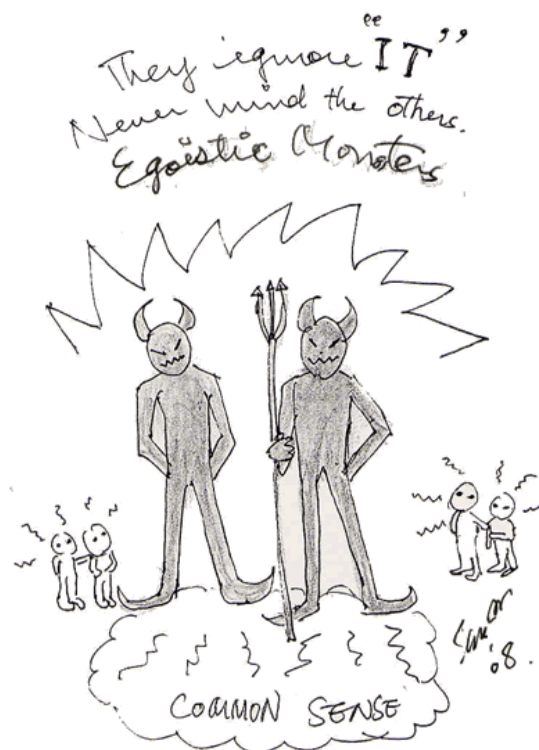
子死亡的事件每年不断发生。而在美国，这就是大问题。将孩子单独放在车里，即使是短时间，没有生命危险，也构成犯罪。在美国如果行人等发现孩子单独留在车里，就会立即致电通知警察。即使将孩子留在车里仅 5 分、10 分钟，当返回时就会被警察戴上手铐。

让幼儿独处就是犯罪。

在日本，将小学生留在家中到附近买东西，不会受罚，但在美国就是违法。因此而被捕时，即使父母交保释金从监狱放出，孩子仍会被保护送到有关机构，直到证明没有虐待才能与孩子再会。

如仅仅是文化、习惯方面的常识不同，不是犯罪，至多丢脸而已。但如不懂法律常识，则有可能被扣上手铐。并非一笑而过的事，务必注意。

[翻译：王菲]



イラスト：湊 早苗
Illustration: Sanae MINATO

女性に年齢を尋ねるのは失礼だというのはかなり広い世界で常識となっているらしい。たいていは実年齢よりも若く見られていると満足する。3ヵ月前に他界した義母は、いつのまにか自称年齢が実年齢より高くなった。まだ80代のうちに「もう、90だもの」と言うのだ。最後に入院したベッドについていた名札には「95歳」とあり、あれ、まだ94歳のはずだが、と私を驚かした。たぶん、緊急入院患者登録のどさくさの中で病院が自己申告年齢をそのまま記したものだだろう。彼女の年齢を聞かされた人が「えー！ほんとうですか？とてもとてもそんなお年には見えませんね。お顔はつやつやだし、お元気そのものだし」と反応してくれることが自分自身への励ましとなっていたのだろう。

だから、「もうこんな歳だし、いつお迎えがきてもいい」などと義母が言えば、「あ、は、は・・・まさか、どう見てもまだまだ長生きされそうですよ」と私は答えていた。怪我や病気の知らせがある度に私は東京から義母の住む奈良に通っていた。痛みに顔を歪めて「もう死にたい」と唸ることもあったが、すぐに「そうやね、100歳までは生きなあかん」と自ら宣言を繰り返しては回復してきた。

今回の痛みはもう手のほどこしようもなく大きくなった肝臓ガンのせいだという医者の説明に唖然とした私は、義母のすぎるような目にどう対応したらよいか、混乱してしまった。ほかの家族とも相談し、患者にはガンであることは伏せておくことに

決定。かつて全身に広がったガンのために七転八倒しながら逝った義父の苦痛を眼前にしている義母を怖がらせたくなかった。これまでの見舞いは週末毎の往復が多かったのに私がいつまでも傍にすることを訝った義母が、突然「私がもうすぐ死ぬから居てくれるん？」と声をかけてきた。点滴による痛み止めのために夢と現の間で発した声に私は動揺してしまった。「いつ死ぬかはわからない。お母さん、誰にだって終わりがあるものでしょう。私が先か、お母さんが先か。お母さんが先になったら、死ぬってどんな具合か教えてくれるといいんだけど、ね。あの世のことも知りたいのに、ね」義母はハーッと大きなため息をついた。

その後、駆けつけてきた孫娘に「おばあちゃん、顔色も悪くないし、早く元気になってね」と声をかけられると小さく頷いている義母を見ながら、私はやはり回復する望みを与えて欲しかったのか、と自分の言葉の残酷さを思った。翌々日、義母は何も語ることなく静かに息を引き取った。

死の床にある者に死の話はタブーなのか。私自身は、死ぬ前にこの世にきっぱりと別れを告げる機会をもらいたいし、次第に自分自身からも遠のいていくのを感じながら逝けることを夢みている。いつかの夏、御宿の海で潮に流され、力尽きてぼっかり体が浮かぶと、やがて視界から陸地の突端が消え、底なしに青い空と眩しい太陽に身を晒し、ぼちゃぼちゃと耳下で鳴っている暖かい波に揺られながら沖に向かって行ったときのように。

*Taboo

Yoshiko NAKANO

It seems to be true in many parts of the world that it's not polite to ask a woman her age. She is generally happy if she appears younger than she really is. My mother-in-law, who passed away three months ago, claimed that she was older than her real age in her last few years. She told others that she was already 90 although she was still in her 80's. On the tag attached to her bed in the hospital where she was sent toward the end, her age was given as 95. I was a bit puzzled because she was still only 94 to the best of my knowledge. I imagined that the nurse had noted down the age according to the patient's own declaration when she arrived in the emergency room. Most people who heard her age used to exclaim, "Is it true? I can hardly believe you are that old. Your skin is lustrous and you look perfectly healthy." And this reaction must have given satisfaction and encouragement to my mother-in-law.

Therefore, when she murmured, "I could go at any time at this age." I used to laugh and said, "Impossible! You look too well to die within the next few years." I always traveled from Tokyo to visit her at her place in Nara when I heard her that she was injured or sick. Sometimes the pain distorted her face and made her groan, "I wish I could die right now." But an instant later she told herself, "But no! I must live to 100." By so repeating her resolution, she overcame every critical situation.

I was completely dumbstruck when her doctor explained to me that her present pain was caused by the liver cancer which had grown too big to be removed. My head was whirling as I tried to face my mother-in-law whose eyes were longing to see a sign of relief in me. After talking with the rest of her family, I decided not to tell her that she had cancer. I didn't want to terrify her with that fact,

because she had already witnessed the agony that caused her husband to jump up and down in the bed before he passed away due to the cancer that had invaded his whole body.

One day, it occurred to her to question why I was staying with her all the time, whereas before, I used to visit her every weekend. All of a sudden she asked me, "Do you stay by me because I am dying?" She uttered these words as she floated between dream and reality due to the heavy infusion of painkiller. "Mother, nobody knows when we will die. Every being must meet its end. I may reach it earlier than you, or you may reach it first. If you are to go first, I'd like to know what it feels like to die. I wish you could tell me what the other world is like too." My mother-in-law let out a long sigh without saying a word.

Soon her granddaughter arrived and said to her, "Grandma, you look well enough. You will recover soon." Then the patient nodded slightly. As I saw this, I regretted my cruel words; I should have encouraged her by assuring her of her recovery. Two days later, my mother-in-law quietly left this world without saying another word.

Is it taboo to talk about death with a patient who is dying? As for myself, I would like to be given a chance to bid farewell to this world and feel myself drawing away at the last stage of life. Is it a mere illusion or a dream? I remember my own experience one summer in the sea off Onjuku (Chiba Pref.). Completely exhausted by my struggles against the current, I found myself floating on a bed of water. Soon the top of a pine tree at the edge of the headland disappeared from my sight. Only the brilliant sun and transparent blue sky were visible above and I listened to the gentle murmurs of the warm water as the current carried me away offshore.

据说在世界上相当广泛范围里，作为常识询问女性年龄是一种失礼。如果看上去比实际年龄小，多数人都满足。可是3个月前去世的婆婆，不知什么时候自称年龄超过了实际年龄。还是80多岁的时候就自称「我已经90岁了」。令我吃惊的是，最后一次住院时病号卡上写着「95岁」。哎，不是才94岁吗。大概是在紧急住院登记时，忙乱中误报了自己的年龄吧。知道老人年龄的人都说「不象，一点不象90多岁。容光焕发的脸，就是健康的表现」。人们的这种反映一定也是对老人的一种鼓励。

每当婆婆说「已经这把岁数了，什么时候都可以去见上帝」时，我总是说「啊，拉，拉，您怎样看都是会长寿的」。在每次接到婆婆伤病通知的时候，我总是往来于东京和婆婆居住的奈良之间。有时婆婆痛得歪曲了脸，有时甚至呻吟着说「不想活了」。接着马上叹道「活到100岁可真成了老不死」。这样反复着，老人的健康总是有所恢复。

对这次无技可施的剧痛，医生的解释是来自于肝癌。我不禁哑然失色。望着婆婆求救的眼神，我不知道如何是好。和亲戚们商量后，决定把癌的事瞒着老人。

我不想让婆婆想起以前因为癌扩散痛得东倒西歪的公公。那样会吓坏婆婆的。到那天为止我总是在周末的往返于医院。这次望着突然出现的我，婆婆惊讶地说「我马上会死吗？」。镇痛点滴中的婆婆的朦胧声音动摇了我。「母亲，我也不明白什么时候会死。谁都会走得，也许我在先，也许母亲在先？如果母亲先去了，请告诉我死是怎样的情形。我也想知道点黄泉的事。」婆婆深深地叹了一口气。

紧接着就赶来的孙女对微微点头的奶奶说，「奶奶脸色不错，您一定要早点恢复健康」。我奢望婆婆康复的同时感到自己言词的残酷。2天后，婆婆什么都没说就断气了。

对临终的人来说，死是禁忌之语吗？我个人很想在临死之前有一个沉着的告别机会。我做过逐渐离开自己奔向远方的梦。好像是在夏日里，在千叶的御宿海滨被潮水冲走。当精疲力竭的身体浮到水面时，视野中的陆地已经消失。无底的蓝天下，晃眼的太阳中曝晒着身体。耳边啪嚓啪嚓地响着温暖的波浪摇动着我流向了海的那边。

[翻译：李水]

港区国際交流協会「交流サロン」のご案内

参加者が自由におしゃべりする場として、隔月第三金曜日の夜、「交流サロン」を開いています。200円程度のスナック菓子をご持参の上、ご参加ください。詳細はお問い合わせ下さい。Tel. 03-6440-0233

12月19日(金)、2月20日(金) 午後6時30分～8時30分
港区国際交流協会(北青山1-6-3 都営北青山一丁目アパート3号棟B1)

MIA Friendship Lounge – Let's talk over a cup of tea!

We welcome your attendance at our MIA Friendship Lounge. The Friendship Lounge is not a lecture or a classroom. Our main purpose is to enjoy chatting, exchanging views and making friends over a cup of coffee or tea. Basically, the 3rd Friday of every 2nd month is your time to participate in mutual understanding and communication between Japanese and non-Japanese residents. Feel free to visit the space and please bring a snack worth 200 yen with you. For details, please call MIA at: 03-6440-0233.

Friday, December 19, February 20; 18:30-20:30
Minato International Association (Toei Kita Aoyama 1-chome Apt., Bldg. #3, B1)

交流社交室信息

为了促进，外国人和日本人的交流，隔月第三个星期五晚上，以下时间举办交流社交室，届时请邀请朋友一起参加。参加者请携带200日元左右的小吃参加。详细的情况请打电话询问：Tel. 03-6440-0233

12月19日，2月20日(星期五) 下午6:30-8:30 于
港区国际交流协会(港区北青山1-6-3 都営北青山1丁目アパート3号棟 地下1階)

【コラム】還暦

還暦（かんれき）とは、「暦（こよみ）が元に戻（かえ）る」ことを意味しています。旧暦では暦の数え方として干支（えと）を用いますが、具体的に干支とは10種類の十干（じっかん：甲・乙・丙・丁…）と12種類の十二支（子・丑・寅・卯…）とを一つずつ組み合わせて表します。干支は60年でちょうど一巡し、数え61年目に入った（還暦）時、その人の第2の人生の門出としてお祝いをするのです。また、昔から近親者が赤衣着物（頭巾や半纏など）を贈る習慣がありますが、これは赤子に魔除けの意味で赤い産着を着せていたことや、その人が赤ちゃんに戻って新しい人生を始めることを祝うためと言われています。

Column: Kanreki

The Japanese term “kanreki” refers to a person’s 60th birthday. It comes from the characters for return or cycle (還 kan or kaeru) and calendar (暦 koyomi) and means completion of the 60-year lunar calendar cycle comprising the 10 celestial signs (十干 jukkan) and the 12 zodiacal animal signs (干支 eto). Upon entering one’s 61st year (one’s 60th birthday), the cycle begins again and the person is said to be entering his or her second life. This is considered a congratulatory event, and the traditional custom of close relatives presenting the person with a set of red clothing (vest and hat) is said to come from the ancient custom of dressing a newborn baby in red to ward off evil spirits, thus signifying protection from evil for the person who has returned to infancy and begun life anew.

专栏：花甲

日语的还历和花甲同义，意思是重新开始的年头。旧历用天干地支作为年头的记数方法。具体地说干支是指十干（甲・乙・丙・丁…）和十二支（子・丑・寅・卯…）的组合表示。天干地支的一巡正好是60年。数到第61年的时候叫花甲之年。正如一个人可喜可贺的第2人生的开始一样，很久以前就有在花甲之年。花甲之年有亲戚赠送红衣（头巾和半缠等）的习惯。这也是给婴儿穿避邪红肚兜习惯的开端。花甲就好像是一个人重返婴儿，开始了新的人生一样。

僕の大学生のころまでは劉備・関羽・張飛の中の一人に似ていると言われると、曹操に似ていると言われるよりもうれしかったものです。劉関張の三人組と曹操は正しく名作「三国志」が作り上げた正反対の性格を持ったキャラクターである。

また、自分のことを武大郎にと例えられると、大体の中国人は怒ります。何故なら、軽蔑されると思うからです。武大郎は、「水滸伝」の中でも長くかつ格好よく描かれているヒーローである虎退治の武松の兄なのですが、とても弱いキャラクターです。その上背が低く、妻を盗まれてしまった人物でもあります。

外国人が思うほど、中国人は「水滸伝」と「三国志」読んでいません。しかし、ここまで述べた人物についての知識などは常識で、誰でも通じることです。つまり、これくらいのことは中国人にとっての文学常識だと僕は思います。

僕が大学を受験したころ、文学常識はよく国語（中国語）の問題として出題されていました。従って先生にも、「これはおまけの点取り問題だから、お前らは是非この5点を取れるように」と言われます。そして授業中にも先生から時々、この小説は誰の作品か、この作家はどの国の出身かなどといった類の質問を出されていました。先生の口調からは、これは誰でも知っている常識だからお前らも知っておけ、というメッセージが感じられました。

もちろん教科書にも中国の名作を含め、様々の世界の名作の一部についてのデータが載せられています。例えば、アメリカのヘミングウェイの代表作は「老人と海」である。フランスのスタンダールの「赤と黒」は、支配者たちに対する反発を描く19世紀フランス文学の代表作である。大デュマの代表作は「三銃士」である。などなど。ちなみに、僕は未だに「三銃士」以上に痛快に友情と恋と冒険とを描いている作品を知らない。また、ゴーゴリの代表作である「外套」は、高校の教科書に掲載されているので、知らない学生は恐らくいません。ロシア文学といえば、トルストイの「戦争と平和」はみな知っていたらと思うと思います。

ところが、ヘミングウェイ、スタンダール、大デュマ、ゴーゴリ、トルストイの作品は、僕はすべて読んでいません。ゴーゴリの「外套」以外は無知も同然である。にも関わらず大学受験では、この部分の点数はきちんと取ることができました。

もちろん、日々緊張しながらの受験生活の中では先生も「読め」とまで言えなかったでしょう。しかし僕はその後にも、ほとんどこれらの名作と言われているものを読んでいません。世の中のみんなが読んでいものだから、知らないと恥ずかしいですね。

もっとも三国志や西遊記などの中国の名作は、中国人全員に読まれていると感じますが、家内は読んでいません。

こういった文学作品についての常識が豊富なのはいいことではしょうが、寂しいことでもあります。嘘といえ、嘘になるからです。原作を知らないくせに、知っているふりをしていることになるのです。いや、知っているふりをしたくはありませんが、受験のお陰でどうしてもそうになってしまうのです。

ところで、常識がないようなことを言ったり、またそのような行動を取ったりすると酷いときには馬鹿と言われます。そしてあまりにも常識がない僕は怒られることが多いために虚しくなることも多々あります。

一体常識とはなんなのでしょう。幼いころ、両親や先生を真似て身に着けるものなののでしょうか？或いは教わるものなののでしょうか？常識がマナーのようなことを指すのだとしたら、僕はもうマナーの馬鹿です。何にも分からないも同然なのです。一応人間として、感情があり、教育も長く受けているお陰で、何とか世間知らずで極端にマナーが悪い人間からは免れていると思います。常識の無さを「信じられない」と言われると、「一部自分に責任があるのは避けられないけれど、本当にすべて僕の責任なのだろうか」と思い、納得できるだけの常識さえありません。

ですから真の常識は知りません。ここでは、僕にとっての常識とは何かを書いておきます。

僕は小学校から中学校までは自然についての常識を学び、高校にいたころは大学試験のため、先に書いたように文学についての常識にもよく注意を払いました。そんな関係がないと思われる方もいるでしょうが、一応聞いていただきましょう。

自然についての常識は、教えられたとはいえ、あまり印象に残っていません。覚えているのはトンボは蚊を食べるから益虫だ、鳥は麦を食うから害獣だ、といった益虫・害虫の区別だとか、四季がある理由は夏は地球が太陽に近く、冬は太陽から遠いことくらいです。今の自分にとっては、そんなことはどうでもいいと思うくらいです。

文学についての常識は更に災厄です。今は嘘つきの練習をしていたようだとすら思えます。欧米文学は、まともに小説が一つさえ読んだことがないのに、たくさんの作家と作品の関係をよく覚えてきました。詳しいやつは、その作家の生まれ年、性別、国籍さえ分かるのです。けれどもそんな情報が何になるのでしょうか。小説だって、実際に読んで楽しまなければ意味はありません。自慢話でもなるのかもしれませんが、僕は微妙だと思っています。

***Literary common sense and natural common sense**

Li Shui

When I was a college student, most Chinese people would have preferred being told that they were like Liu Bei, Guan Yu or Zhang Fei than like Cao Cao. In the great novel "Records of Three Kingdoms," the character of Liu, Guan and Zhang was very different from that of Cao.

On the other hand, a Chinese person would be insulted if you compared him or her to Wu Dalang. Although Wu Dalang is the older brother of Wu Song, a character described as a cool hero in a long chapter about Wu Song defeating a tiger, Wu Dalang himself is very weak. Moreover, he is a small man and his wife is a wanton woman.

Not so many Chinese have read "Records of Three Kingdoms" and "Water Margin" as foreigners think. But all Chinese people have knowledge of the above characters. In short, these things are common literary knowledge for the Chinese.

When I was studying for the college entrance examination, common literary knowledge was often examined. Naturally, our teacher told us "These questions are gifts for you so you must answer them and get the points." And in classes, sometimes the teacher would ask us questions like: "Who wrote this novel?" or "What country was this writer born in?" We could tell from the tone of our teacher's voice that he thought this knowledge was very common so we should also know about it.

Of course, there are descriptions of many world famous novels in our textbooks. For example, from my textbooks I learned about Hemingway's masterpiece, "The Old Man and the Sea." Stendhal depicted a resistance to the governing classes in "Le Rouge et le Noir" and this novel is representative of French literature in the 19th century. Another masterpiece is "The Three Musketeers" by Alexandre Dumas. Well, I still don't know a more exciting novel than "The Three Musketeers," which depicted friendship, love and adventure. On the other hand, Gogol's masterpiece "The Overcoat" appeared in high school textbooks, so no high school student is ignorant of this novel. In the case of Russian literature, I think all of my classmates knew Tolstoy's "War and Peace." Nevertheless, I never read the works of Hemingway, Stendhal, Dumas, Gogol or Tolstoy except "The Overcoat." Still I was able to gain the points for common literary knowledge on the college entrance examination.

It is natural that in the strained times when we were preparing for the exam, our teacher couldn't make us read these works. But I still have not read most of these works known as masterpieces and because many people have read them I feel ashamed of my ignorance. Indeed, my wife has never read the masterpieces of Chinese literature like "Records of

Three Kingdoms" or "Journey to the West" although we think all Chinese people have read them.

It must be good to know about these literary works, but also a little lonely. It is like a lie, in that I behave as if I have read these novels although I never have. No, no, I don't want to do that. But I have behaved so until now whether I like it or not, due to the college entrance exam.

By the way, when you say or do something and this action makes people think you don't have common sense, they say to you "You fool!" Because of my obvious lack of common sense, I am often scolded, so sometimes I feel void of common sense.

What is "common sense?" Is it something that people imitate and learn from their parents and teachers in childhood, or they are taught by others? If common sense refers only to behavior or manners, I may very well lack these and know nothing. By and large I'm a human being, I have feelings and I have been educated for a long time, so I think I'm not a person who is unfamiliar with common sense. But when someone says to me, "Where is your common sense? I can't believe it!" I would think, "Of course I am responsible for my lack of common sense, but why only blame me when I lack the common sense to understand why I lack it."

So, I don't know what real common sense is, but I will tell you what I think it is.

I studied natural common sense in elementary and junior high school. In high school, as I wrote, I paid extra attention to literary common sense when I was studying for the college entrance examinations. You may think this is another issue, but please read a little more.

I don't remember natural common sense so clearly although I was taught. Now I can only recall that dragonflies eat mosquitoes so they are useful insects and birds eat malt so they are harmful animals, and because the earth is near to the sun in summer and far from the sun in winter so there are four seasons. But for me as a grown-up, I don't think these things are so important.

Literary common sense is more difficult. Now I even think I was just training to be a liar in those high school days. Especially about Western literature, we never read a novel but we crammed many spurious facts about writers and their works into our heads. Some classmates could even tell you a writer's birthday, sex and nationality. But what can that information do? If you don't read the novel, you can't enjoy it. Maybe it is something to boast about, but that's all it is.

[Translated by: Li Min]

在我上大学的时候，如果被谁说成像刘备，关羽，张飞中的一位，都会比被说成是曹操的时候高兴。刘关张三兄弟和曹操是名著「三国志」塑造出来的正反面典型人物。

倘若自己被比喻成武大郎，一般的中国人都会生气，因为感觉到被轻视。武大郎是另一部中国古典名著「水浒传」中的打虎英雄武松的哥哥。「水浒传」用了最长的篇幅来描写威风堂堂的伟丈夫武松。与此相反，武大郎却是一个非常软弱，连自己的妻子都守不住的小个子。

出乎外国人所料，并没有那末多的中国人读过名著「水浒传」和「三国志」。可是上述常识性故事，几乎每一个中国人都知道。可以说这便是中国人的文学常识。

我考大学时，语文试题里常有文学常识的出题。老师也总是说，这5分是白给。你们一定要拿到手。为此老师常常介绍外国作家及作品。课堂上也经常要问，这部小说是谁的作品，该作家的出身国在那里。从老师的口气里可以听出来，这些都是众所周知的常识，都应当知道。

当然教材中不仅有中国的文学经典，也包括各种各样的世界文学名著及有关资料。例如，美国作家海明威的代表作「老人与海」，法国作家司汤达所著描写反抗19世纪统治者的小说「红与黑」。同为法国名家的大仲马的代表作「三剑客」是我所知道的最愉快的冒险小说。「三剑客」淋漓尽致地描写了友情和恋爱。高中课本里选用的契科夫的「套中人」众所周知。说到俄国文学，托尔斯泰的「战争与和平」更是无人不晓。

可我根本就没读过海明威，司汤达，大仲马，契科夫，托尔斯泰的小说。课本所选契科夫的「套中人」以外，我一无所知。尽管如此，大学考试中的文学常识这5分我都拿到了。当然，在紧张的高考学习期间，老师没有强迫我们去读这些名著，可一想到世界上知

道这些名著的人都是读过的，我会感到害羞。

人们常常误认为，中国人都会读过「三国志」「西游记」，其实不然，我妻子就根本没有读过。知道些文学作品的知识是不错的，可是没有读过小说本身令人遗憾。看起来好象对一无所知的原著都很明白，甚至让自己有说谎的感觉。我并不想不懂装懂，就好像是因为准备高考而不小心知道了这些常识。

平常的生活中缺乏常识，或是作出缺乏常识的行动时被称为傻子。我也常办傻事惹人生气，自己也很迷茫。常识到底是什莫。小时候模仿父母老师，或是被父母老师教育得到些常识。如果说常识仅仅是指行为举止，我可能的确缺乏些常识。可拥有感情，有受过教育，无论如何我不可能是一个极端无礼的人。倘若被认为是缺乏常识的话，的确很难令人接受。尽管是个人责任，不能理解得话，很难想象如何能负起全部责任。

其实，并不懂得真的常识的我写出这篇文章，的确是不够负责。从小学到中学之间学过自然常识，为了高考也充分留意了文学常识。这些似乎称不上常识的常识被灌进我的脑子里，影响了我的一生。

我所学到的自然常识，并没有给我留下多少记忆。能够记住的只是、吃蚊子的蜻蜓是益虫，吃麦子的麻雀是害虫。总而言之是要区别害虫和益虫。还学到了四季的理由，夏季地球离太阳近，冬天地球离太阳远。可今天的我，并没有感觉到这些常识在日常生活中的意义。

文学常识更令人感到沮丧，好像是经受了说谎训练，说到欧美文学，一本小说也没有读过，却背住了许多作家和作品的关系。更有甚者竟然记住了作家的生日，性别，国籍。

可是，知道这些常识究竟有何意义。倘若小说只知其名，不读其文，如何从中取乐。仅仅用于吹牛的常识实在是令人奇怪。

中高生のスイス大使館訪問

横田 采果（港区立青山中学校 3 年）

スイス大使館へは（私の学校からは）顧問と私を含めた生徒 6 名で行きました。

最初はスイスのことについていろいろなことを、スクリーンを使って説明していただきました。スイスの主な生産品である時計のことや食べ物、スイスアルプスなどの大自然や、多国籍国家であり中立国であることなど、スイスについて多くのことを学びました。その中でも特にスイスに多くある大自然に関してはとても美しく、すばらしいと思いました。最近では森林伐採などさまざまな場所での環境破壊が目立ち、各国でも深刻な問題として取り上げられていますが、永久にスイスのすばらしい自然を守って欲しいと強く思いました。

その後の質問コーナーでは、多くの質問が挙げられました。一つ目には、スイスは何故中立国になったのか、という質問でした。その答えにも丁寧なお答えをいただきました。スイスでは、日本と同じような歴史を持っていて、過去に戦争を繰り返し、一度大きな戦争に負けてからは戦争を起こさないようにしよう、という活動が広まり、最終的に中立国となったのだそうです。日本でも今、戦争への不参加を決めた憲法 9 条を改正するかどうかという話題に多くの議論がなされています。しかし、私はどんな理由があろうとも人間同士が殺し合い、戦争というだけでお互いを憎みあうなどしてはならないと考えています。だからスイスも日本も今の状態のまま戦争に参加しないよう強く願い、これからもスイスは中立国として、日本は憲法 9 条を守って欲しいと思いました。

その他にも環境問題や日本文化との交流についても丁寧なご返事をいただきました。スイスのいろいろな問題に対して国民と共に考え、実際に行動する体制を知り、とても感動しました。私はまだスイスを訪れたことはありませんが、いつか訪れ、多くのスイスの文化に触れてみたい、と思います。

Visit to the Embassy of Switzerland

Ayaka YOKOTA; Aoyama Junior High School, 3rd year

An advisor/teacher and six students, including myself, from Aoyama Junior High School participated in the program to visit the Embassy of Switzerland.

First we learned a lot of things about Switzerland through the explanation accompanied by slides projected on a screen: the major products of Switzerland such as watches and clocks, food, the grand nature of the Swiss Alps. We also learned that it is a country where people of many different nationalities live together with the Swiss and that it has kept its neutrality through the years. Above all I was impressed by the beauty and wonder of its grand nature. In spite of the fact that environmental destruction due to deforestation is widespread, causing serious issues in the present world, I heartily hoped that Switzerland would go on maintaining its precious nature for ever.

After that, many questions were raised. The first question was about what made Switzerland a neutral country. A very kind and concise reply was given to this question. Switzerland's history shares many similarities with Japanese history, in that both countries engaged in many wars in the past. But after being defeated in a major war, the Swiss people started a movement to never again be engaged in war, and finally decided to establish a neutral state. In Japan, there is great controversy over whether Article 9 of our Constitution that renounces war should be revised. Personally, I feel strongly that people shouldn't hate or kill each other in wars under any circumstances, so I hope from the bottom of my heart that Switzerland will remain neutral and Japan will retain Article 9 of the Constitution without amendment and never engage in war again.

We received kind answers to many other questions, such as about environmental problems and cultural exchange with Japan. I was excited to know about the Swiss system in which the government faces various issues together with the people and acts accordingly.

I've never been to Switzerland, but I really hope that I can visit it someday and get in touch with the great variety of Swiss culture.

[Translated by: Yoshiko NAKANO]

走访瑞士大使馆

横田 采果（港区立青山中学校 3 年）

由顾问和包括我在内的 6 名中学生一起访问了瑞士大使馆。

先由大使馆的工作人员通过荧屏向我们介绍了一下瑞士这个国家。由此我们了解到瑞士的主要工业是手表制造业、饮食习惯、包括瑞士阿尔卑斯在内的大自然风光及它是一个中立国等情况。特别在介绍到瑞士的自然环境时，情不自禁地觉得瑞士真是个美丽饶人的国家。近来越来越多破坏生态环境的行为诸如胡乱采伐森林等等，在世界各地发生，这种情况已被全世界所关注：瑞士的自然环境千万别被破坏的想法也由此而生！

接着在提问的时候，大家又各自提出了很多问题，比如瑞士为什么会成为中立国的？大使馆工作人员很认真地回答了这个问题。瑞士同日本有相似的经历，也曾经不断地有战争，后来在一次很大的战争中失败后就开始了不战的运动，最终成为了中立国。日本现在也在就修改宪法第 9 条不参战条例而引发出各种不同的想法和意见。但我个人认为无论何种理由，人与人之间的互相惨杀的战争、只会给相互之间带来仇恨，是绝对不能容许的！所以我强烈地希望日本要遵守宪法第 9 条，象瑞士一样成为永不参战的中立国。

另外关于环境方面的问题、和日本进行文化交流方面的情况也一一向我们做了回答。瑞士政府在遇到这些问题时总是和国民共同面对、共同解决的态度让我着实感动。从未去过瑞士的我，通过这次活动，萌生了以后有机会能去瑞士，亲身体验一下瑞士文化的念头。

[翻译：王晓菁]

英語で異文化再発見／“Let's Rediscover Japan”

港区国際交流協会では、英語による「異文化再発見」の会を毎月原則第二または第三土曜日に開いています。

日本について、知っていると思っても、まだ見落としていることがあるかもしれません。また、海外のことを知ること、日本のことを知ることもあるかもしれません。

このプログラムでは、毎回、スピーカーが一つ的话题を提供します。スピーカーのお話を聞くだけでなく、参加者同士のフリーディスカッションの時間もあります。

興味をお持ちの方、ぜひ一度ご参加ください。新しい発見があるかもしれません。

日にち： 11 月 15 日（土）、12 月 20 日（土）午後 1 時 30 分～3 時 30 分（1 月は休会）

場 所： 三田 NN ホール スペース D（港区芝 4-1-23）

This program for rediscovering Japan is conducted in English. Meetings are held monthly on the second or third Saturday. Can you fully and confidently express yourself when discussing Japan and your own country? There may be some things you have overlooked or features which you will want to reexamine after hearing someone else's ideas. Meetings include time for free discussion among participants. Everyone is welcome!

Date: Saturdays, November 15, December 20 (no meeting in January)

Time: From 1:30 p.m. to 3:30 p.m.

Place: Mita NN Hall, Space D, 4-1-23 Shiba, Minato-ku, Tokyo

スイス大使館に行って

小野 敬一郎（港区立青山中学校 1 年）

僕はスイスのグリンデルワルドやジュネーブに去年行きました。なぜなら 2 年間、父の仕事の都合でベルギーに住んでいて、今年の 7 月に帰国したからです。グリンデルワルドではスキーを楽しみました。ジュネーブでは噴水がとてもきれいだったことが印象的でした。

日本に帰ってきて新しい中学校に通い、国際交流部という部活があったので、これまでの経験が活かせると思い入りました。その部活でスイス大使館に行く機会がありました。

スイス大使館では、日本語を上手にお話なさる大使館の人がスイスについて一時間程度教えてくださいました。日本とは違うところ、政治関係、人口、土地、出生率など。日本と共通しているところは山が多いなど。観光名所や文化、自然遺産の説明もしていただきました。

スイスの紹介の後で、僕は一つ質問をしました。

「スイスではスポーツは何が流行っていますか」。

そうしたら、スキーかサッカーなどが流行っていると、丁寧に教えてくださいました。

スイス大使館の対応がたいへん親切で、帰る前にお土産までもらって、とても嬉しかったです。ありがとうございました。

Visit to the Embassy of Switzerland

Keiichiro ONO; Aoyama Junior High School, 1st year

Last year I visited Grindelwald and Geneva in Switzerland. I had this opportunity because I had lived in Belgium for two years before my father was posted back to Japan last July. I enjoyed skiing in Grindelwald and I was very impressed by the beautiful fountains in Geneva.

After I came back to Japan, I started to study at Aoyama Junior High School where I enrolled in the International Relations Club because I thought I would be able to make the best use of my past experience there. I was given the opportunity to visit the Embassy of Switzerland as one of the club's activities.

At the Embassy, a Swiss diplomat gave us a presentation on his country for about an hour in perfect Japanese. He talked about the differences between Japan and Switzerland such as politics, population, land, birth rate, etc. He also showed us the sightseeing spots and explained cultural and natural assets of his country.

After his presentation, I asked him about popular sports in Switzerland. He answered me very politely, "Skiing and football are very popular."

I was very happy with the warm welcome we received at the Embassy and they even gave us a bag of gifts before we left them. I thank them for everything.

[Translated by: Yoshiko NAKANO]

走访瑞士大使馆

小野 敬一郎（港区立青山中学校 1 年）

我曾去过瑞士的 Grindelwald 及日内瓦。我是去年回国的，这以前因父亲的工作关系在比利时生活了 2 年。在 Grindelwald 滑过雪，欣赏过日内瓦美丽的喷水。

回到日本后就进了中学，加入国际交流部是因为自己在海外生活过 2 年的关系。凑巧这次课外活动是去拜访大使馆。

一到大使馆就有用流利的日语为我们介绍瑞士的大使馆工作人员，在短短的一小时内，就和日本不同的地方比如政治、人口、土地、出生率等。相似之处，比如山较多等给我们做了细致地解释。另外就观光地、文化遗产、自然环境等也进行了简单地说明。

在等介绍完以后，我试着提了一个问题。那就是「瑞士什么样的运动最为流行」。回答是最流行的是滑雪、足球等运动。正如我所想的！

瑞士大使馆对我们的接待很亲切，回来之前还高兴地拿到了礼物。真是太感谢了！

[翻译：王晓菁]

中高生のスイス大使館訪問

上洲 すみれ（港区立青山中学校 1 年）

ヨーロッパの西の方にある小さな国、スイス。私は「アルプスの少女ハイジ」を昔読んだときにとっても興味を持った国でした。広大な自然、豊かな緑、古くから伝わる文化、実際に行って体感してみたいと思っていました。行くことはできないけれど、今回のスイス大使館訪問でさまざまなことを体感することができました。

スイスの国土は北海道の約半分、人口は 726 万人です。ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語と地方で話す言葉は別々です。ロマンシュ語はラテン系の言葉で、話す人はわずか 0.5% ほどです。私はスイス独自の言語があるかと思っていましたが、ほとんどの人はドイツ語を話すそうです。

政治についても、これはスイス独特だと思いました。地方分権といって、それぞれの州や地方で政治を取り仕切ります。他にも直接民主制といった制度も発達しています。

直接民主制では、国民が憲法改正を選挙で実施することができます。このような制度が発達しているということは、国民の政治に関する意識が高いのだと思います。

私が最も関心を持ったのは、職業訓練という制度です。義務教育を終えたら高校に進んでもいいし、実際に働きながら勉強してもいいのです。この職業体験は 6～7 割の人が選ぶそうです。日本にもこのような制度を取り入れて欲しいと思います。

世界遺産はたくさんあります。私はザンクト・ガレン僧院にある図書館に行ってみたいと思いました。映画の中に出てきそうな大きな図書館です。見てみたいなと思います。

今回のスイス大使館訪問では、今まで知らなかったスイスの姿を知ることができました。大人になったら、実際にスイスに行って、さまざまな自然と文化を感じてみたいです。

Visit to the Embassy of Switzerland

Sumire UEZU; Aoyama Junior High School, 1st year

Switzerland is a small country located in the western part of Europe. It's a country that I became very much interested in when I read "Heidi." Since then I wanted to personally touch its grand nature, rich greenery and long culture and history. Though it wasn't a real stay in the country, the visit to the Embassy made me feel familiar with various aspects of Switzerland.

The whole land of Switzerland is half the size of Hokkaido and its population is 7.26 million. There are four official languages—German, French, Italian and Romansh—and they are spoken in different regions. The Romansh language is derived from Latin and spoken by only 0.5 % of the population. I had imagined that there would be a national Swiss language but I learned that most of the Swiss speak German.

I also learned that Swiss politics is characteristic. Each canton and region keeps its autonomy in this decentralized political system. Also, the system of direct democracy is well developed. Under this system people can change the constitution by referendum. I think this proves that the nation is very conscious of its politics.

What interested me most was the vocational training system. After completing compulsory education, students have the option of continuing their studies in a secondary school or starting to work and learning at the same time. Some 60 to 70% of youth choose the vocational experience. I wish Japan also would adopt this wonderful system.

There are many world heritage sites. I want to visit the library at the monastery of St. Gallen. It's a huge library that I will probably encounter only in the movies. I really want to go there and see it for myself.

The visit at the Embassy let me get acquainted with many faces of Switzerland that I had been ignorant about. I am looking forward to a day when I grow up and get in touch with the real Switzerland and its rich nature and culture.

[Translated by: Yoshiko NAKANO]

走访瑞士大使馆

上江洲 Sumire（港区立青山中学校 1 年）

瑞士是位于欧洲西面的小国家。我对这个国家感兴趣是因为我曾读过「阿尔卑斯的少女 Heidi」这本书的原因。一望无际的大自然、茂盛的树林、悠久的历史、文化，真的很想亲身体会一下这种文化。尽管未曾去过，但通过这次对大使馆的访问，使我体会到不少东西。

瑞士的国土只有北海道的一半，人口有 7 2 6 万。

语种分德语、法语、意大利语、Rumantsch 语及其他各种方言语种。Rumantsch 语是属拉丁语系，只有人口的 0.5% 的人在使用。一直以为瑞士有自己国家的语言，却没想到几乎大部分的人都在说德语。

在政治方面，瑞士人也有独特的一面。地方分权也就由是各个州、地方自己来管理着政治。另外直接民主制度很发达。

所谓直接民主制就是国民有权在选举中修改宪法。我觉得瑞士人对政治的关心是源于这种制度的发达。

最让我关心的是职业培训制度。在完成义务教育后可以直接升入高中，也可以边工作边学习。大约有 6 ~ 7 成的人选择了后者。真希望我们国家也能引进这种制度。

另外瑞士还有不少世界遗产。我向往的是 Convent of St. Gall 修道院的图书馆。那只有在电影里才会看到的大图书馆真让人神往。

通过这次访问大使馆，使我对瑞士有了新的了解。等我长大了，能自己一个人去瑞士了，我一定要好好地感受一下这种不同于自己的国家的自然与文化！

[翻译：王晓菁]

日本語で話す会 / “Let’s Chat in Japanese”

港区国際交流協会では、日本語を勉強していても実際に話す機会がない外国人の方、新しく友だちをつくりたい、話題に興味をお持ちの外国人の方を対象に「日本語で話す会」を毎月 1 回、土曜日に開いています。LCJ ボランティアスタッフがお待ちしております。ぜひ一度、ご参加ください。

日にち： 11 月 15 日（土）、12 月 20 日（土）午前 11 時～午後 12 時 30 分（1 月は休会）

場 所： 三田 NN ホール スペース D （港区芝 4-1-23）

If you do not have any opportunity to speak it out in spite of studying Japanese, or if you want to make friends, and have an interest in discussion/exchange of opinions, you are welcome to join our LCJ, “Let’s Chat in Japanese,” meeting. Let’s have great fun chatting in Japanese!! Feel free to join us.

Date: Saturdays, November 15, December 20 (no meeting in January)

Time: From 11:00 a.m. to 12:30 p.m.

Place: Mita NN Hall, Space D, 4-1-23 Shiba, Minato-ku, Tokyo

*万国四方八方(9) 少々のことには

岩船 雅美

[2008年9月6日]

アニマルプラネットでシャチの特集番組を放映していました。

シャチは、生息場所によってそれぞれ異なる文化をもっているのだそうです。たとえば、ある海域に住むシャチの群れは魚を捕食するけれど哺乳類（たとえば、鯨やオットセイ、もちろん人間も）は狙わないといいます。その群れにとっては、「食べ物」といえば「魚」であって、哺乳類は食べ物ではないというのです。他の生息場所に住むシャチは、鯨やオットセイを好んで捕食するというのに。

生息場所によって、「何を食べ物と規定するか」という群れの認識が異なり、その認識は親シャチから狩の仕方を習う子シャチの世代に継承されていく、これは「文化」なのです。番組では、野性のシャチと海を泳ぐことができるツアーが紹介されていました。これは、哺乳類に「食べ物」としての興味を持たないグループのシャチだから、人間が泳いでいても襲うことはないのだという説明でした。すると、このシャチのグループの常識は「魚は食べ物」。「哺乳類は食べ物」は非常識ということになります。それにしても、あの美しい生き物のシャチと泳ぐなんて、ちょっと興味がありますよね。

わが人類の常識や非常識は、文化でいろいろですよね。タイに7年間住んでいたこともあって、口が大噴火するような辛いタイ料理、私は大好きです。でも日本のタイ料理屋さんで「辛くしてくださいね」とタイ語で頼んでも、まず本場ほどに辛くは作ってはくれません。日本料理の辛さの常識とタイ料理の辛さの常識のズレは大きいですね。

さて、常識や非常識は、文化的な違いによって異なるのはもちろんですが、実は人それぞれででも大きな違いがあるんじゃないのかな、と私は思っています。

私は、我が日本の文化、「先輩・後輩」関係が苦手なのです。たまたま誕生日が前後しただけなのに、どうして「先輩」「後輩」という昔の身分制度みたいな仕組みができちゃうの？と、子どもの頃から不思議でなりません。タイ社会では、年齢による序列が更にはっきりしています。年下の方が年上に呼びかけるときは「ピー」という敬称をつけて名前を呼びかけます。タイが大好きな私ですが、これだけは、苦手でなりません。

年齢で序列をつけるシステムは、集団をスムーズに運営するために必要な文化なんだ、ということは理屈ではわかるのですが、苦手なものはどうしようもないですね。タイでは、「ピー・イワフネ」と呼びかけられると違和感を感じましたが、それは学生時代に「先輩」と呼びかけられたときと同じ違和感でした。もちろん、日本でもタイでも、苦手だということは表面に出ないように努めたつもりですが、「先輩を先輩とも思わない非常識な奴だ」と思われたことも多々あっただろうな、と思います。

タイ料理と日本料理。辛さの度合いでいえばタイ料理の常識は日本料理の非常識。でも、そう言いたえるのは野暮なこと。どちらもおいしくいただくのが最善です。

少々のことには、お互いに目をつぶりましょう、よね。

だから皆さま、私の非常識にもどうぞお手柔らかに・・・。

*We shouldn't stick to trifles!

Masami IWAFUNE

[September 6, 2008]

I watched a special program on Animal Planet the other day featuring grampuses.

They say grampuses have their own unique culture depending on their habitats. For example, some prey exclusively on fish not on mammals, whales, fur seals, or humans of course. For them, food means fish not mammals and others who live in another sea area like whales and fur seals.

Their group perception of what is prescribed as food varies due to their habitats, and is passed on to the next generation. This IS culture. The program televised a tour in which you can swim with wild fur seals. Those are said to be the ones which are not interested in mammals and will never attack men. Their common sense says, "Fish is food and the idea of mammals being food is absurd. Apart from that, isn't it inviting to swim with those beautiful fur seals?"

They have a lot of common sense, don't they? I love Thai food, for I lived in Thailand for seven years. I like the feeling of my mouth bursting into eruption. However, every time I ask the cook in the Thai restaurants in Japan in Thai to make my dish REALLY hot, it's never hot enough to satisfy me. The degree of "hot" is very different between Thailand and Japan, I suppose.

Needless to say that common sense differs in each culture, and I would also say each person has his/her own

culture. Talking about myself, I am poor in senior-junior relations in Japanese culture. Even when I was a little child, I kept wondering why we should be aware of a kind of status system: it's only a small detail who was born earlier than another.... In Thailand, seniority means more. You must put an honorific title of "Pii" when you address someone older than you. I never got used to it, even though I love Thailand.

I understand in the back of my mind that the ranking order does good to run a group smoothly, but I can't help feeling strange about it. When I was in Thailand, I had the feeling that something was out of joint every time someone called me "Pii Iwafune." It was the same awkwardness that I felt in school being called "Senpai." I tried not to reveal that, but I'm afraid some people might have regarded me as rude, either in Thailand or in Japan.

The sensible degree of being hot is, of course, different depending of each culture, but there's no use in making an assertion from either side. The best way is to appreciate both.

We shouldn't argue about trifles!

Ladies and gentlemen, please don't be too hard on my lack of common sense!

[Translated by: Mitsuko KAWASHIMA]

*万国四方八方(9)小事一桩

岩船 雅美

[2008年9月6日]

动物星球频道正播放着逆戟鲸的特集。

据说生息地不同的逆戟鲸，有各自不同的文化。譬如，居住在某海域的逆戟鲸群虽说捕食鱼，却不捉哺乳类（鲸鱼和海狗，当然也不吃人）。对这个鲸群来说，「食物」是「鱼」，哺乳类不是食物。据说居住在其他区域的逆戟鲸，喜欢捕食鲸鱼和海狗。

生息地不同的逆戟鲸群，「规定什么是食物」的认识也不同。子逆戟鲸的世代通过向父辈学习狩猎法时继承了这种认识。这就是「文化」。该节目介绍了能和野性逆戟鲸一起游泳的旅行。正是对哺乳类「食物」不感兴趣逆戟鲸类，不会袭击一起游泳的人类。可以说，这个逆戟鲸群的常识是「鱼是食物」。而「哺乳类是食物」则是非常识。即使那样，与美丽的逆戟鲸一起游泳，也实在是令人感兴趣。

不同的人类文化产生种种常识和非常识。因为在泰国住了7年，我非常喜欢辣得嘴里喷火的泰国菜。可是在日本的泰国饭馆，即使用泰语说「请给我搞得辣一些」，也不可能做到泰国本地那样辣。就是说，常识上日本的泰国菜和泰国本地菜的辣度有很大区别。

异样的文化产生异样的常识和非常识。我想即使人不是大也有差异吗。我自己不很适应日本文化中的「先辈、晚辈」关系。生日有前有后不过是一种偶然。为什么会有像旧式的身分制度那样的「先辈、晚辈」概念。我小时候就觉得不可思议。在泰国，按年龄的社会序列更加明显。年轻人称呼年长者时要在名字上加上敬称「Pii」。我非常喜欢泰国，不过这一点很棘手。

按年龄排序列的组织，是顺畅地集团运作必要的文化。这个理由我也明白。不过难对付的东西也没办法。在泰国，被叫称「Pii 岩船」时我感到不太协调。好像是我学生时代被称为「先辈」时同样的不协调感。当然，日本也好泰国也好，即便不适应也努力着不表现出来。我想，反过来我也有被认为是「简直不象是先辈的非常识的家伙」的时候。

泰国菜和日本菜。如果说到辣的程度的话，泰国菜的常识是日本菜的非常识。但是那样说太不地道，哪边都好吃是最好的。

小事一桩，睁一只眼，闭一只眼吧。因此各位，也请对没有常识的我手下留情。

[翻译：李水]



イラスト：湊 早苗
Illustration: Sanae MINATO

編集後記

いつも South Wind をお読みいただきありがとうございます。第 60 号を迎えた今号では「私の常識！＝あなたの非常識？」というテーマで寄稿していただきました。

次号、第 61 号は、実は South Wind 発刊 16 年目にかかる号でもありますので、再び原点に戻り、South Wind 第 1 号のテーマでもあった「国際交流とは」について寄稿していただきたいと思います。

個人的な話ですが、私は昨年イタリア国籍の男性と結婚しました。同じ日本人でも、北と南の人が結婚すれば味噌汁から日々の生活習慣まで違いがあり、「文化交流」があると思いますが、外国人との結婚は、それこそ毎日が国際交流という感じもしなくてはなりません。日本には「以心伝心」という考えがありますが、夫婦の会話の中で私も時にそれを夫に求めてしまっている時もあり、「それは言葉にしてくれないと分からないよ」と言われることがあります。日本に住む外国人として、もう少し日本文化を理解してくれてもいいのではとも思いますが、でも以心伝心に頼り過ぎてコミュニケーション不足に陥っている日本の家族も少なくないことに気づき、「できるだけ言葉に伝えていこう」と思い直したりしました。私は常々「違う人との交流は、自分を映してくれる鏡だ」とも思っています。年齢の違う方と接していると自分の時代的な立ち位置も感じられたり、男性と話していると自分の女性らしさが発見されたり、外国の方と接していると日本文化について再考する機会が増えるのです。私にとっての「国際交流とは」、日本文化の再考でもあるように思います。

さまざまなシーンで活躍されている South Wind の寄稿者からの投稿が楽しみです。また、初めての方もぜひこの機会にお寄せください。お待ちしております。

編集長 ののがき あつこ

Postscript

Thank you very much for reading South Wind. For this, our 60th issue, we received many contributions on the theme, “Common sense to me = nonsense to you!” As the next issue will be published right after the 15th anniversary of publishing South Wind, we would like to go back to our starting point, and use the same theme as we did in the first issue of South Wind: What is international exchange?

Speaking personally, I married an Italian man last year. Even in a marriage between two Japanese, if the husband is from the north and the wife is from the south, there are many cultural differences, like the taste of miso soup and daily customs, and that is also a form of cultural exchange. For me, my marriage is like an international exchange in everyday life. Japan embraces the concept of *ishin-denshin* (nonverbal communication), and I sometimes do that with my husband. When I do, my husband says, “In that case, you need to tell me in words, otherwise I cannot understand.” As a foreigner living in Japan, I hope my husband will understand more Japanese culture, but I have also found that there are many Japanese families with communication problems—maybe because they lean too much on *ishin-denshin*. So I say to myself, “OK, I should try to express myself in words more.” I usually think communication with different people is a kind of mirror to see myself. When I speak with someone older or younger, it makes me think about my age and position, and when I speak with a man, it makes me aware of my femininity; when I speak with foreigners, it gives me an opportunity to think anew about our Japanese culture. So for me, international exchange is to think anew about Japanese culture.

I know our regular contributors have been active in various places, and we look forward to receiving their articles for our next issue. Of course, we also welcome articles from new contributors.

Editor in Chief: Atsuko NONOGAKI

编辑后记

首先请允许我向「南风窗」的老读者表示感谢。这一期正是第 60 号，我们征集了「我的常识！＝你的非常识？」为题的稿件。

下一期是第 61 号，发刊时正值「南风窗」的 16 年。重返原点，用第 1 号「南风窗」一样的题目「所谓国际交流」征集投稿。

个人的事很不好意思，我去年和意大利国籍的男性结婚了。我想即使是同住日本的北方人和南方人结婚，日常生活习惯也会有细微的差异。甚至在酱汤味那样的小节上，也会产生「文化交流」。跟外国人结了婚，更是每时每刻都会感受到国际交流。日本有「以心传心」的传统思想。我有时在夫妇会话中这样要求我丈夫。丈夫有时会说「不用言词表达的话不明白哟」。我曾以为住在日本的外国人，总可以稍微多理解一些日本文化。可是过分依赖以心传心，而陷入交流不足的日本家族也不在少数。我重新考虑了「尽可能要言词传达感情」。我常想「不同人之间的交流，是映照自己的一面镜子」。和年龄不同的人接触能感到自己的时代性的立场，跟男性说话会发现自己的女性特征，与外国人接触会增加再考日本文化的机会。对我来说「所谓国际交流」，就是日本文化的再考。

得到活跃在各方面的「南风窗」老作者的来稿是我们的快乐。更期待着初次上阵的各位朋友踊跃投稿。我们恭候着您的来鸿。

编辑长 野野垣 Atsuko
[翻译：李水]



投稿募集

港区国際交流協会翻訳委員会では、紙上を意見発表／交換、討論の場として、多様性を認識し、一層深い理解と友好を互いに深め合うことを目的として「South Wind」を発行しています。皆さまの投稿をお待ちしております。なお、掲載についてはSW編集部で検討させていただきます。

- ① South Wind に掲載された記事は港区国際交流協会の website に掲載されることもあります。
- ② South Wind に掲載された記事についての著作権は港区国際交流協会に帰属します。
- ③ South Wind No. 61 のテーマ：「国際交流とは」について（投稿締切日＝11月20日）

投稿方法： 原稿は原則として日・英・中のいずれかを使用してください。投稿原稿の字数は800字以内をお願いします。

宛先： 107-0061 港区北青山 1-6-3 都営北青山 1 丁目アパート 3 号棟 地下 1 階
港区国際交流協会事務局 South Wind 編集部
Fax: (03) 6440-0234 E-mail: s-wind@minato-intl-assn.gr.jp

Your Contribution is Welcome

By exchanging opinions with other people, who are from different cultures or backgrounds, in "South Wind," we hope we are able to recognize the diversity of our society and deepen our mutual understanding and friendship with each other. Please take full advantage of this opportunity to express your opinions! The Editorial Committee reserves the right to accept, reject and/or edit articles submitted for publication.

1. Minato International Association reserves the right to publish all articles submitted for publication in South Wind on their website (<http://www.minato-intl-assn.gr.jp>).
2. Copyrights on all articles submitted for publication in South Wind become the sole property of Minato International Association.
3. Deadline for articles on "What is international exchange?" for South Wind No. 61 is November 20

How to contribute: Please submit your essay written in Japanese, English or Chinese; essays should be 1,200 words or less.

Send contributions to: South Wind Editorial Room; Minato International Association
Toei Kita Aoyama 1-Chome Apt., Bldg. 3, B1
1-6-3 Kita Aoyama; Minato-ku, Tokyo 107-0061
Fax: 03-6440-0234 E-mail: s-wind@minato-intl-assn.gr.jp

募稿

目前港区国際交流協会翻訳委員会出版名「South Wind」の小報。基于不同国家之文化风俗等，互相提出各种各样的意见，把该报当看发表所交换所想讨论各个意见之场所，进一步加深相互理解加强交流为其目的。欢迎各位积极投稿。将由编辑部研究决定是否采用。

- ① South Wind 里登载的文章也可能在港区国際交流協会の website 里发表。
- ② South Wind 里登载的文章的著作権は归港区国際交流協会所有。
- ③ South Wind No. 61 主题：「所谓国际交流」（投稿截止日期＝11月20日）

投稿方法： 原稿原文请用下面的语言：日语、英语、中文，投稿原稿的字在800字以内，请多关照。

收件地址： 107-0061 港区北青山 1-6-3 都営北青山一丁目公寓 3 号楼 B1
港区国際交流協会 "South Wind" 编辑部
Fax: 03-6440-0234